

平成22年度みよし市公共施設

温室効果ガス排出量の公表

みよし市地球温暖化対策実行計画に基づき、平成22年度の市内の公共施設などからの温室効果ガス排出量を調査しました。その結果がまとまりましたのでお知らせします。

◆温室効果ガス排出抑制の背景

地球温暖化は、家庭や事業所などから排出される二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量の増加が原因といわれています。人類の生活基盤を脅かす深刻な問題です。

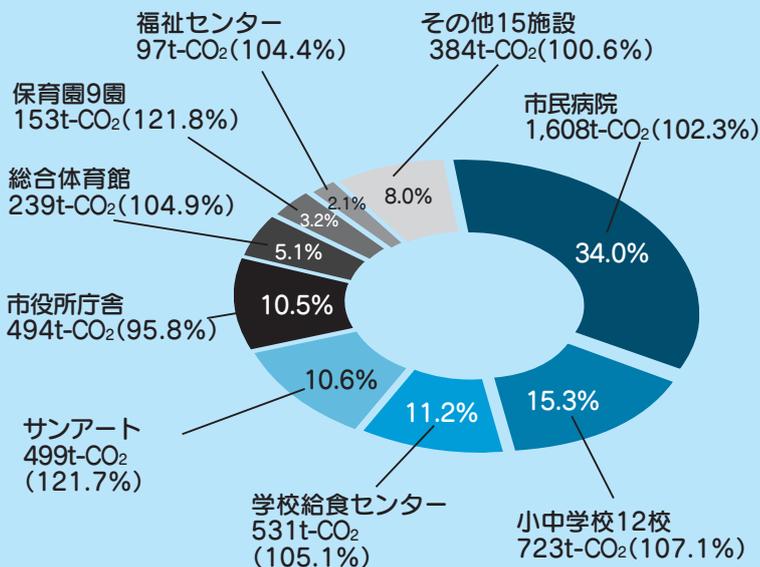
平成9年に開催された「地球温暖化防止京都会議（気候変動枠組条約第3回締約国会議）」で採択された「京都議定書」では、日本の温室効果ガスの削減目標は、平成20年から平成24年までの5年間で、平成2年のレベルより6%削減することと定められています（平成17年2月16日発効）。

しかし温室効果ガス排出量は、基準年の平成11年には平成2年よりさらに7%増加しています。

◆温室効果ガスの算出方法

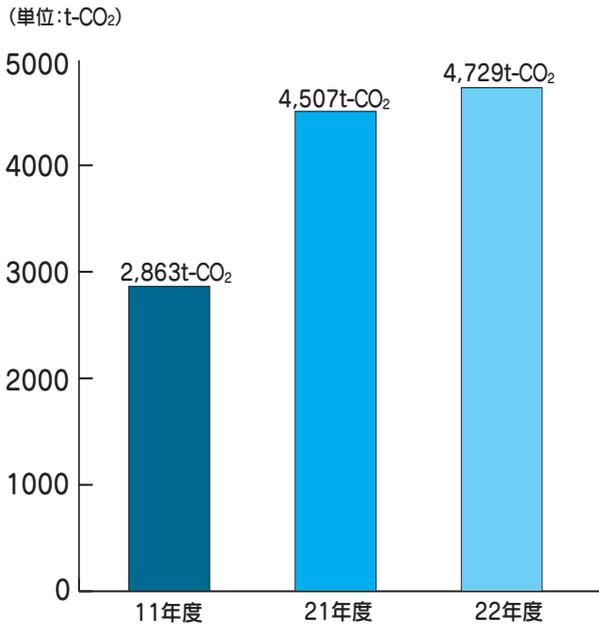
平成22年度のみよし市の公共施設などの温室効果ガス排出量（図1）は、電気、ガス、水道の使用量や燃やすごみの排出量などの実績を、根拠として算出しています。

（図1）平成22年度温室効果ガスの施設別排出量
合計 4,729t-CO₂（対前年度比104.9%）



▼問い合わせ＝環境課
TEL (32) 8018 FAX (32) 25085

(図2)市施設の温室効果ガス排出量(実績)



◆市施設の温室効果ガス排出量

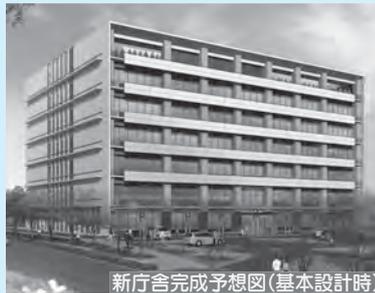
市施設の平成22年度温室効果ガス排出量の合計は4,729t-CO₂で、平成11年度(基準年)の2,863t-CO₂に比べても65%増加しています(図2)。

増加の主な要因としては、平成12年10月の市民情報サービスセンター「サンネット」の開設や平成13年のみよし市民病院新築移転、平成14年9月の学習交流センター開設、平成15年4月の学校給食センターの新築移転、平成15年4月の三好丘交流センター開設、平成18年4月の三好丘中学校開校、平成19年4月の黒笹小学校開校、平成21年4月の黒笹保育園開園など対象施設の増加したことが考えられます。

みよし市としては、新たに建設する施設への太陽光発電パネルの導入や、市内全小学校にCO₂排出量が確認できるモニターを設置するなど、市の施設からの温室効果ガスの排出量削減に努めます。



▲中央図書館と環境事務所(学習交流センター内)では、省エネルギー対策事業の一環として昨年の夏、窓の外にゴーヤで緑のカーテンを作り、太陽光の熱を遮断することで、空調機器の電力消費を抑える「緑のカーテン設置事業」を実施しました



▲5月7日の業務開始を目指し、建設中の市役所新庁舎。エコボイド(吹き抜け)や、太陽光発電パネル、屋上緑化、緑化バルコニーなど、自然エネルギーの利用や省エネルギー、緑化を進めた環境にやさしい庁舎とします

温室効果ガス排出量削減取り組み施設(42施設)

市役所庁舎、中央図書館、歴史民俗資料館、保健センター、保育園(9園)、不燃物埋立処分場、三好丘交流センター、サンネット、福祉センター、高齢者生きがいセンター、緑と花のセンター、勤労青少年ホーム、総合体育館、学校給食センター、小中学校(12校)、明越会館、中央公民館(平成22年12月末で閉鎖)、三好池カヌーセンター、保田ヶ池カヌーポロ競技場管理事務所、旭グラウンド、学習交流センター、サンアート、みよし市民病院